

三本足

自分の足でしっかり立つことが
おとなになるということならば
おとなにならないまま死んでも
僕はかまわない。

ずっとむかし

遠い国のひとが言ったのは

三〇だったか四〇だったか。

そんなわけない。

そのころの僕が

ちゃんと立っていられたのだとしたら

それは数え切れないほどのひとが

僕を支える三本目の足でいてくれたからだ。

自分の二本の足だけで立てるようになって

僕はなれなくて良い。なりたくない。

そんなのさびしくてつまらない。

あのころもいまも

僕を支えてくれている

しっている誰かやしらない誰かを

いまもいる誰かやいまはもういない誰かを

支える三本目の足の

ひとりでいたい。

そういう風に

僕は立っていたい。